

平成27年度 事務事業等の評価結果

総務課行政改革推進室

平成27年度 事務事業等の評価結果

	拡充	継続	改善	統合	縮小	廃止	計	新規	
								採択	不採択
評価件数	0	1	1	0	0	0	2	0	0

平成27年度 外部評価対象事業に対する評価結果

No.	課名	事業番号	事業名称	H27当初予算		評価内容・行政判断(行政改革推進本部)			
				事業費(千円)	うち一般財源(千円)	評価	評価内容	再評価期間(3年を超えない範囲)	次回評価年度
1	観光課	3784	いぶすき菜の花マラソン実行委員会負担金	6,983	6,983	縮小に向けた改善	<p>本大会の運営手法においてはこれまでの評価に基づき、実行委員会の早期開催、参加料の見直し、救護体制・安全対策の充実など、具体的改善が見られたことは評価できる。</p> <p>ただし、以下の項目については早急に改善を図るべきである。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 予算編成及び予算執行においては、その必要性、数量、単価等を詳細かつ厳正に検証した上で見直しを行い、透明性を図ること。 2 負担金においては、これまで抜本的な見直しはなされていないことから、金額の根拠を明確にすること。 3 基金積立においては、具体的な目的や目標金額の設定には至っていないことから、基金の目的に対する適正な目標金額の算出とその積立方法について、明確な基準を設けること。 <p>本大会は、観光振興など本市の活性化に寄与していることから、これまで大会実行委員会に対し相応の負担金を交付してきた。</p> <p>しかしながら、今年で第35回を迎え、全国屈指の参加者数を誇る市民マラソンへと成長し、歳入規模も拡大していることから、今後は参加料等の自主財源に基づく予算編成を進めるなど、市担当課と大会事務局が一体となって、自主運営に向けた取組を進めていくべきである。</p> <p>なお、昨今の各地における都市型マラソン開催により、参加者数の減少が懸念されるが、本大会の魅力である「おもてなしの心を通じた地元住民と参加者とのふれあい」を大切にして、よりよい大会運営に努めていただきたい。</p>	1年	H28

平成27年度 外部評価対象事業に対する評価結果

No.	課名	事業番号	事業名称	H27当初予算		評価内容・行政判断(行政改革推進本部)			
				事業費(千円)	うち一般財源(千円)	評価	評価内容	再評価期間(3年を超えない範囲)	次回評価年度
2	市長公室	3500	鹿児島県立山川高等学校支援活性化対策協議会補助	712	712	継続	<p>山川高校は園芸工学・農業経済科を有し、本市の基幹産業である農業の後継者を育成する重要な役割を担っているが、定員充足率の低下を受け、当該高校の活性化と振興を図る目的で平成25年度から本事業を実施している。</p> <p>これまで、地元レストランとの共同商品開発や市内農家での研修等、当該高校の特色を生かした活性化策や、定員確保のための具体策として「下宿受け入れ家庭バンク」の創設、「他地域からの生徒獲得」等にも取り組んでいる。その結果、入学希望者が増加するなど本補助に対する一定の効果がうかがえる。</p> <p>全国的に見て、本市は温暖な気候や豊富な資源に恵まれるとともに、整備された農地など、農業を学ぶ有利な環境にあることから、県内だけでなく全国を視野に入れた広報活動を行うとともに、多くの生徒が魅力を感じる学校づくりや生徒の受入れ体制の充実に一層の努力が求められる。これらの対応には、学校と市及び地域が連携して、より効果的な事業展開を継続して進めるべきである。</p> <p>特に、市においては県に対して、農業を学ぶ環境に恵まれた山川高校の有利性をもとに、学校存続に向けた有効な提言をより一層積極的に行うべきである。</p> <p>なお、当協議会は、将来の本市の農業振興、担い手育成という観点に立ち、農業従事者、地域住民等から幅広く意見を集約し、具体的な活性化策を図っていただきたい。特に、意見の集約に際しては、女性や若者の発想を生かすことも必要である。</p>	—	—